

特集② 議会報告会

第8回議会報告会の開催について

市議会について、広く市民に知って頂くと同時に市民の声を市政に反映させるために、議会基本条例に基づき、毎年議会報告会を開催しています。しかし、効率よく的確に市民の声を十分聞き取れないことへの反省により、報告会の形に試行錯誤をしています。

昨年度より、各常任委員会に分かれて開催し、今年度はテーマを昨年よりも絞りました。産業建設班では甲賀市のものづくりにおける課題、総務班は土山地域における課題、厚生文教班は高齢者支援に絞ったテーマを設定し開催されました。

テーマを明確にすることで、参加者からの意見もより鮮明になり、政策に直結するたくさんのご意見を頂ける結果になりました。ご協力頂きました皆様、ありがとうございました。



班	開催日	場 所	テーマ	参加者
厚生文教	7/24	まる一む	ゆたかな高齢者支援をめざして	福祉関係者
総 務	7/25	土山開発センター	土山地域市民センター等の改修について 旧鮎河・山内小学校の跡地利用について	一般市民
産業建設	8/5	(株)日立建機ティエラ	甲賀市の産業振興について	甲賀市工業会

厚生文教班・高齢者支援の課題

当委員会は「あい甲賀 いつもの暮らしに『しあわせ』を感じるまち」実現のための3つのテーマ①子育て・教育②地域経済③福祉・介護の内2つを所管するため、市民にとって身近な施策を数多く審査している。

昨年の報告会は子育て世代の市民にご参加していただき、遊び場や遊具の不足を指摘いただいた。今年度、公園の遊具の修理補助などの「プレイパーク整備推進モデル事業」を立ち上げ、既にご利用をいただいているが、まだ余裕があると聞いているので是非ご活用いただきたい。

今年度は、敬老祝い金の改正に伴い、高齢者の①生きがい対策②移動支援③健康寿命の延伸対策を講じることになったので、テーマを「ゆたかな高齢者支援をめざして」とし、福祉やボランティア関連の市民に集まっていたいただき、フリートークをしていただいた。

災害時の高齢者避難支援については、個別計画の取り組み区数も低い、作成率(同意率)の低さが問題である。高齢者だけでなく、

障がい者・引きこもり・外国籍の方々も視野に入れるべきとの指摘があった。また日常のお付き合いが大切との意見もいただいた。移動支援については、免許証返納は死活問題であり、コミバス・コミタクもまだまだ不十分との意見が多かった。



他にも沢山のご意見やご要望をいただいた。今後、施策への取り組みを推進していく。

特集② 議会報告会

総務班・土山地域の課題

7月25日、総務常任委員会の議会報告会を土山町で開催した。委員会としての課題である、「公共施設のありかた」を土山に置き換えて、2点に絞り報告をした。

1点目は、開発センター老朽化に伴い土山地域市民センターの改修計画、2点目は旧鮎河・山内小学校の跡地利用について現在の計画も含め報告した。

公共施設については、「水口中心に整備されている。」「市民センターの改修は土山が後になっている。」「との不満がだが、当初開発センターの機能を市民センターに移行する事になっていたが、区長会を始め各種団体からの意見を伺いながら調整を進めていたので遅れた。また、旧小学校の利活用や、閉校した小学校の校歌をお知らせチャイムに流せないか、などの意見が出された。その他、農村下水の管理の問題や道路の道幅が狭い、避難所の問題等々、地域での問題点が質疑として上がってきた。

今回の議会報告会は8回目の開催となる。昨年からは、委員会の



諸課題をテーマに問題点を掘り下げていく事が目的として開催した。

合併から15年を迎え、施設の統合を進めていかなければならないが、本委員会の取り組むテーマは、住民生活に直結する大きな問題であると認識している。本年は土山町のみなさんのご意見も充分とまではいかなくても、お聞かせいただいた。今後の委員会において、所管からの報告や計画を受け、住民の皆さんからのご意見を踏まえ、議会としてどうあるべきか、しっかりと議論をしていきたい。

産業建設班・ものづくり企業の課題

産業建設班の意見交換会では雇用問題とそれに関連した居住環境、公共交通に関して議論が終始した。雇用状況については、十分足りていると言う声もあれば、足りないと言う声もあり様々であった。

現在高校新卒採用では1人につき5社選べるほどで、目標の採用人数に到達せず、女性、高齢者、外国人、障がい者雇用も同時に進められているようである。

工業会の大部分を占める中小企業では採用募集を単独で手広くすることが難しく、例えば、市が中心になり工業会への就職斡旋をしてくれると助かるとの声があった。現在、大卒向けにはそうした会社が設けられているが、高専卒向けがない。

採用募集する上で甲賀市の居住環境や公共交通の悪さが不利になっていることもわかった。例えば若い社員が退勤後あるいは休日に遊びに行くところが少なく、これが敬遠されているのではと懸念されていた。社内の交流に不可欠な懇親会開催にも一苦労されている様子も伺えた。



社員の通勤や社外からの訪問に対しても十分な公共交通がなく、駅まで迎えに行く企業もある。それに対し、潜在的に要望の高い路線と時間については、コミバス等の路線増便も検討できるので取りまとめて頂きたいとの要望も逆に委員会側から投げかけた。

こうした議論を通じ、居住環境や公共交通の改善は雇用人口を増やしていくために非常に大切であることを強く感じた。甲賀市の居住環境や公共交通については、現在市内に居住する市民のこのみ考えて議論されがちだが、工業会の雇用を通じて市外から人を呼び込んで行く上でも重要であることが、今回の意見交換会で見えてきた。